

躍進

いきいき狭山人
びと

茶どころ狭山で新たなチャレンジ 抹茶づくりで伝統と革新の精神を込めて 狭山茶の発展に努めていきたい

「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でトドメさす」と、茶作り歌にも歌われる狭山市はお茶の生産地としてその名声は広く知られていますが、しかし、当地域ではこれまで抹茶の製造は行われていないため、各方面の方々から待

ち望む声がありました。そんな中、平成17年度に国からアグリチャレンジジャー支援助事業としての認定を受け、県内初のお茶・抹茶の製造工場(有)明日香を創立した、同社社長の小野田実さんにお話を伺いました。

明日香は、市内のお茶生産者の有志5人によって、お茶・抹茶の民間工場として平成18年5月に操業を開始しました。5人それぞれが自ら茶業を営む中で、家族にも協力を願いながら、みんなで研究を重ね、抹茶づくりに全力で取り組んでいます。

抹茶の本場である京都・宇治の生産者を訪問したり、自分たちの製品の評価を受けるなど、品質向上に日々努力しているそうです。茶の木の覆い方、肥培の管理方法など、600年以上の歴史を誇る宇治から、私たちは多くを学んでいます。2年目の私たちが、5人で創意工夫をしな

がら、本場に追いつき追い越せの気持ちで頑張っています」と意欲を語る小野田さん。京都の専門メーカーの機械を導入したプラントで、抹茶の品質は格段に向上し、その製造技術を応用してユニークな商品も作り出しています。中でも抹茶をボトル詰めにした「おてがる抹茶」は、伝統重視の関西では見ることのできない商品のよう

に、今後は抹茶を利用した新たな商品と、市場の開発に取り組んでいきたいとのこと。

明日香の取り組みは生産者茶道など各界から関心を持たれており、昨年の初めには月に5回くらいのペースで、遠くは愛知県や茨城県などからも視察に訪れたそうです。「私たちはこれまで長く煎茶作りに携わってきました。しかし、抹茶は別の世界なので、一から勉

強する必要がありません。5人それぞれ意見を含ませるのに大変なところもありますが仲間間で一つのものに取り組んでいるという充実感があります」と小野田さんは言います。

茶どころ狭山で新たに生まれたお茶・抹茶製造工場「(有)明日香」。伝統文化としての抹茶を大切にしながらも、洋菓子やパン、ソフトクリームなどさまざまな製品にブレンドされるほか、私たちの狭山茶が日常生活のより身近な食品として親しまれていく、新しい道が作られようとしています。



狭山の抹茶「明松」と「おてがる抹茶」

県内初のお茶・抹茶製造工場

(有) 明日香



「明日香」を支える五人の挑戦者 前列左から、浅見誠次さん、宮岡巨さん、後列左から、久保田正之さん、小野田実さん、奥富康裕さん

市民みなさんの声

オピニオン

緑多く自然豊かな狭山市は 外国人にも優しいまちに



五十嵐ウライワンさん
(下広瀬在住)

私は1999年4月にタイ王国ウボンラーチャターニ県から狭山市に来ました。夫は日本人で小学6年の長男と3人で暮らしています。緑が多く自然豊かな狭山市は、とても生活しやすく、今では家庭菜園でタイ野菜を自分で作っています。このようなことができるのも、狭山が大好きな理由の一つです。また、国際交流協会が運営する日本語教室のおかげで、言葉を習いながら友人もたくさんできました。

今の私にとっては申し分のない狭山市ですが、外国人の立場として考えると、生活に関する外国人の相談窓口が市にあればもっといいと思います。初めて狭山市に住み、異文化に接することは不安でいっぱいです。暮らしのルールも、分からなければ守ることもできません。また外国人が読める案内パンフレットなどもあれば便利だと思います。日本語でも、漢字に振り仮名がついていれば構いません。でも、振り仮名には、なぜかカタカナが多いですね。私たちが分かりやすい、ひらがなだと助かります。私の大好きで素敵な狭山市は、もっと外国人にも優しいまちになっていただきたいと思っています。

市の考え方

貴重なご意見ありがとうございます。

市は国際交流協会と連携し、日本語教室など外国人市民の皆さんへの支援を行っています。パンフレットや刊行物などは、さらに工夫を加え、外国人の皆さんにも分かりやすくしていきたいです。相談窓口については、以前に設置を試みたこともありましたが、今後、必要性の高まりを考慮し、運営上も無理のない形で検討していきたいと考えています。

担当 市民文化課

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

問合せ柿沼征男さんへ
2954 1826

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) ✉koho@city.sayama.saitama.jp

私たちの会は、昭和62年に発足しました。現在27名の会員が毎週日曜日に広瀬公民館で、活発に活動しています。練習は、気功、太極拳、太極剣の3部あり、多種類の型を積極的に取り入れて本格的な練習をしています。

太極拳の特徴は、過激な運動というより、一人ひとりの健康状態に合わせて徐々に練習になれ、体調を整えてゆくことです。体に特別な負担はかかりませんから、練習後にストレッチを感じることもなく、さわやかな気持ちになります。体調のすぐれない人の回復にも最適です。また、あらゆる年齢層や職種の人が気軽に参加できることも魅力です。

練習は和気あいあいとした雰囲気の中で行っています。また、年1・2回屋外練習の後、バーベキュー大会を行うのも大きな楽しみます。

当面の目標は、秋の文化祭での発表ですが、会のモットーである「急がず、ゆつたりと、楽しく」の精神で練習に励んでいます。

私の宝物...

創作に欠かせない2本の筆

私の宝物は、5年前に東京と中国で買った2本の書道用の筆です。この筆で創作絵手紙の作品を仕上げています。



絵手紙は大型で、墨で表現した文章と合体させた独自のものです。絵も文字も1本の筆で表現しますが、この筆はどちらも手にぴったりと合っていて、私の体の一部のようなものです。この筆のおかげで、繊細で緻密な表現が可能になり、納得のいく作品を生み出せるようになりました。



筆は墨表現の世界を広げてくれます

表現が可能になり、納得のいく作品を生み出せるようになりました。

今回は中央在住の友人を紹介します。

Hello ハロー仲間たち

Vol.311



目標は親睦と技術の向上。そして太極拳を広めること

広瀬太極拳同好会